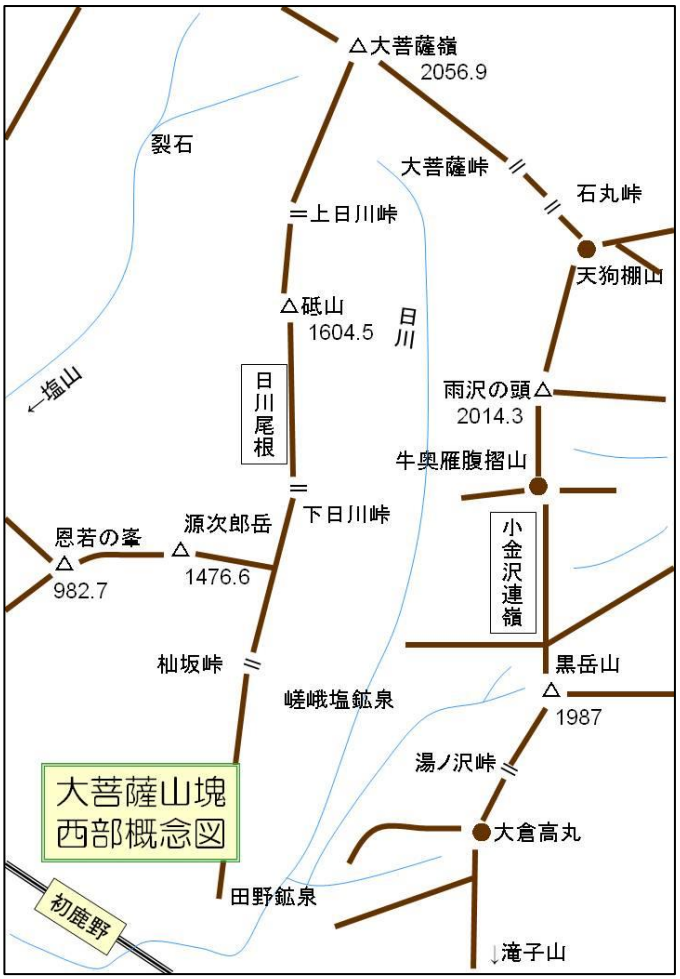
踏　み　跡　＜ My mountains ＞

大菩薩	日川尾根から恩若峰へ	No.043

大菩薩嶺から日川の西側を南北に走る尾根が日川尾根である。
北から上日川峠（1580m）、砥山峠（1570m）、中日川峠（1570m）、下日川峠（1510m）、杣坂峠（1438m）、牛奥峠（1424m）といくつもの峠道が存在していたということは、塩山から日川の谷へのアクセスが多かったことを示している。
日川という名は、天正壬午の乱、田野合戦の流血で川の水が三日染まったという伝説から「三日血川」という名が付き、「みっかわ」 → 「にっかわ」 と転じたといわれているが、どうもすっきりしない。



昭和 40 年 3 月 6 日
新宿発23時45分長野行で出発。同行は恩田。
昭和 40 年 3 月7日
塩山着2時48分。メモには書いてないが、多分駅舎で仮眠したと思う。
6時42分発の裂石行のバスに乗車。まずは上日川峠に登る。8時17分、立ったままで呼吸調整。砥山（1604.5m）を越えて中日川峠は通過（9時25分）。途中、見晴しの良い所で昼食、9時35分と少々変則的な時刻ではあるが、腹時計が基本なので10時10分まで休憩。
下日川峠10時35分。源次郎岳への分岐になるピーク、11時着。景色を楽しみ30分昼寝。
源次郎岳（1476.6m）11時50分、頂上付近に大きくはないが岩があり、横たわるのには好都合、春を思わせる日差しの下で二人並んで再び昼寝。いつ頃の話かは忘れたが、源次郎岳の南面の谷を流れる鬢櫛川に迷い込んで遭難騒ぎをおこした登山者がいたように覚えている。この、考えただけでも想像の巡る美しい名の川は、源次郎岳に源を発して緩やかに曲がりくねり、甲府盆地に入っていく。さほどの大きさの川でもないが、源次郎岳、恩若の峰という山名も合わせて、とても味のある名前だ。
西北西に延びる尾根を甲府盆地に向かって下って行くと恩若の峯（982.6m）。真下に塩山の町が広がり甲府盆地の地形が地図で見たとおりに広がっている。14時から14時30分まで最後の休憩。
甲府盆地の東端、塩山と勝沼の間のぶどう棚の中の小道を抜けて塩山駅に15時20分に到着。どこもかしこもぶどう畑だらけで、房の垂れる季節のことを思ってみただけでもよだれが出てくる。今は三月、駅の水道の水でのどを潤してガマンした。

以上

＜余談＞
初鹿野（はじかの）→甲斐大和　勝沼（かつぬま）→勝沼ぶどう郷　別田（べつでん）　→ 春日居町
石和（いさわ）→石和温泉　中央本線の駅名もだいぶ変わってしまって、味わいが失せてきた。

（修正・更新：2023年10月）